

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

THIS PAGE BLANK (USPTO)

デジタルコミュニケーションの総合誌

INTERNET

m a g a z i n e

S/N 091530, 254
Group 2756
347



We Love Internet-People

7.5Mbps No.22

【インターネットマガジン】

定価 980円

【特集企画】 ところが違う、ところがすごい。最新機能を徹底比較

「ネットスケープ vs インターネットエクスプローラー」

【特集企画】 電子メールのところが知りたい。ほか

「高度なメールの使い方FAQ」

【レポート】 おいしいか? それとも...?

「知られざるクッキーの正体」

【セミナー】 加速するデジタルビジネスの社会

「インターネットのマーケティング」

【特集企画】 ネットワークの未来

○ネットワークゲームの未来「11月」

○ネットワークから入ってくるソフトの未来の最新情報「READ.ME」

【インターネット11月号】

各地直送/マッキントッシュ/オンライン小説/電子メール

【特集】

2001年までの世界
次世代コミュニケーションの世界

【特別付録1/CD-ROM】

「インターネットナビゲーターCD」

○製品版インターネットエクスプローラー3.0 (Win95)・2.1 (MacOS)

ショックウェーブ日本語版/NETALエディタ「どないく2.1」 販売版 他

○WWW on CD / 各地直送/マッキントッシュ/オンライン小説/電子メール

【特別付録2/小冊子ブック】

「インターネットの未来」ホームページ作成ツールガイド

1996. 11

THIS PAGE BLANK (USPTO)

最新版

次世代コミュニケーションツールカタログ

最近、ネットミーティングのような同時に双方向でコミュニケーションできるツールがずいぶんたくさん登場してきた。すでにおなじみのCU-SeeMeから最新ツールのNet2Phoneまで、コミュニケーションツールを一挙紹介。試しに使ってみれば、その便利さに驚くぞ!



ネットミーティング(マイクロソフト)

音声・チャットはもちろん、アプリケーションを共有して操作もできる



Net Meeting

ネットミーティングは、インターネットエクスプロラと同時にリリースされたコミュニケーションツールだ。音声による会話、チャット、ホワイトボードといった機能が付いている。それに加え、自分のアプリケーションはもちろんのこと、相手のアプリケーションをも共有できるという機能が付いているのが特徴だ。

起動させると、まずユーザーロケーションサービスというサーバーにアクセスする。ここには、世界中でネットミーティングを使用しているユーザーの一覧が表示されるので、その中から話したい相手を選ぶという形になっている。これなら、話し相手が見つかりやすい。また、このサービスにアクセスしない場合は、IPアドレスを入力すればOKだ。

さて、一番の特徴であるアプリケーション共有の方法だが、会話をしているだけだが、たとえばワードを立ち上げたら、メニューから「アプリケーションの共有」でワードを指定する。すると、ワードの画面がほかの人のコンピュータに送られる。しかも、つながっているみんながワードの画面に書き込みができる、つまり共有できるというわけだ。しかし、操作の主導権は1人にしか与えられないので主導権を奪うべく、みんなでマウスをクリックしようということになりかねない…。

とにかくこれを使えば、ブラウザーを共有しながら面白いサイトを紹介したり、将棋ソフトを共有して離れた相手と将棋を指すなんてこともできるというわけなのだ。

実際には、アプリケーションそのものではなく画面を共有するので、参加している人全員が同じアプリケーションを持つ必要がない。まさに、ネットでミーティングができるソフトなのだ。

■使える機能

チャット、音声、動画

ホワイトボード、アプリケーション共有

■共有できる操作

マウス、カーソル

■入手先

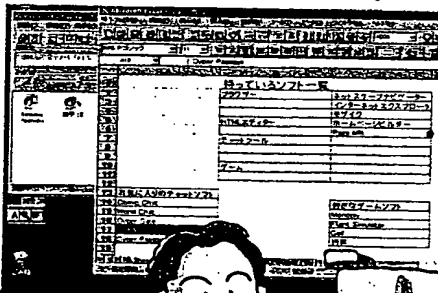
①本誌付録CD-ROM収録先

WIN-Msnetmtg

URL <http://www.microsoft.co.jp/ie/download/>

これがネットミーティングだ!

チャットソフト好きの藤平さんの画面

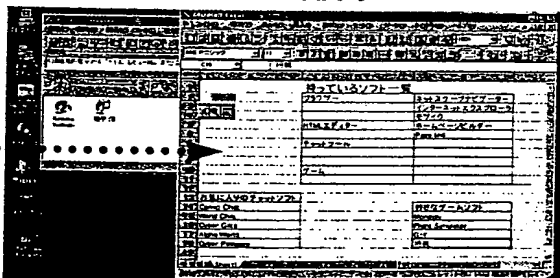


藤平さんの
エクセルを共有

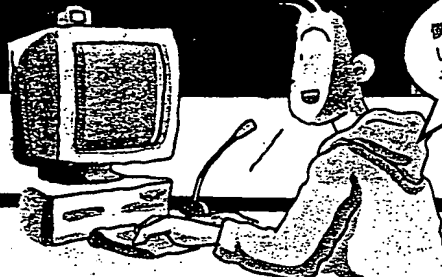
えっとこれが僕の持っているソフトだからこれを付け足そう



ゲームソフト好きの片岡さんの画面



僕の持っているのはこれじゃあ、それ以外のものをそこに入力するよ。





クールトーク(ネットスケープコミュニケーションズ)

画面の画像を共有し、マークを付けながら話せるぞ



Cool Talk

ネットスケープナビゲーター3.0より標準で付属する会話ツールだ。音声による会話、チャットのほかにホワイトボード機能がある。このホワイトボードは、ペンツールなどで絵を書けるほか、画面の画像を取り込んでホワイトボードに貼り付け、画面データにペンツールでマークを入れたり、矢印のスタンプを押したりすることで情報を共有できるというような機能がある。たとえばソフトの画面操作を教えたいときや、グラフィックデータなどについて話し合うときにはもってこいの機能だ。

このホワイトボードは同時にお互いが操作できるので、相手が絵などを書いている間、ほかの人が操作できないということはない。

また、自動応答機能もあり、不在の時に

かってきても音声や文字で不在のメッセージを伝えることができる。また、自分の姿のグラフィックデータを登録し、かかってきた相手にその姿を伝える機能もある。

相手へのかけかたは、LANでつながっているマシンにかける場合は、相手のマシン名を入力すればよい。しかし、専用線やダイヤルアップの場合は、かけたい人の割り当てられたIPアドレスを入力する必要がある。

ダイヤルアップの場合は、接続するたびにIPアドレスが変わるので、それを伝えるのにメールや電話などで伝えなくてはいけない…。それも変な話と言えば変な話だ。

■使える機能

チャット 音声 ホワイトボード

■共有できる操作

カーソル

■入手先

URL <ftp://ftp.netscape.com/pub/navigator/3.0/>

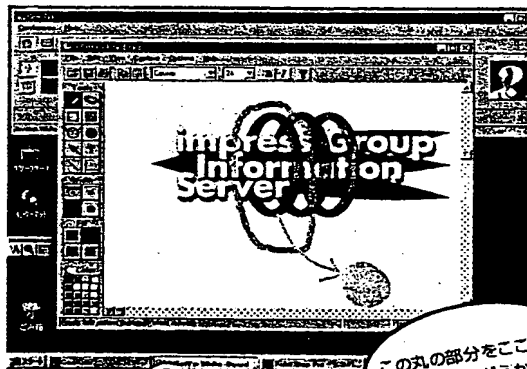
URL <ftp://ftp.cs.titech.ac.jp/pub/net/www/netscape/navigator/3.0/>

URL <ftp://sunsite.sut.ac.jp/pub/archives/www/netscape/navigator/3.0/>

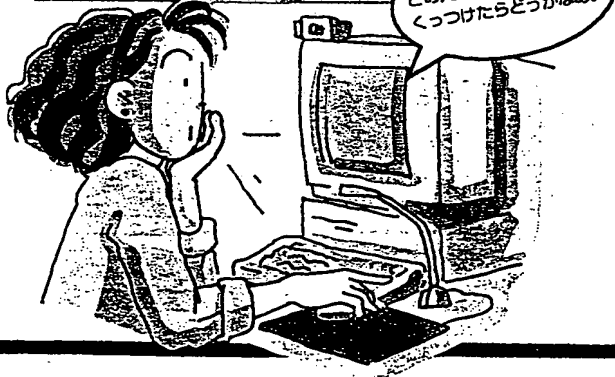
URL <ftp://ftp.glocom.ac.jp/pub/net/netscape/pub/navigator/3.0/>

これがクールトークだ

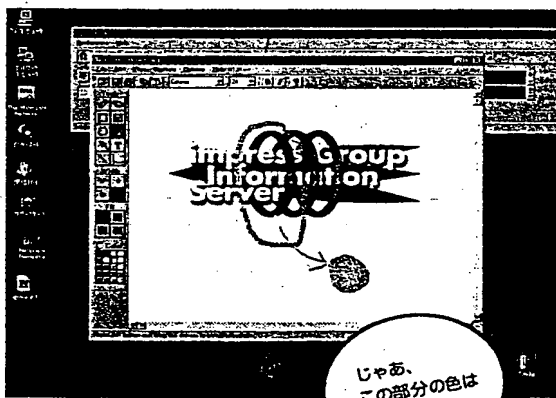
デザイナーの小林さんの画面



この丸の部分をここにくっつけたらどうかね。



イラストレーターの鈴木さんの画面



じゃあ、この部分の色はこれを使おう。





Look@Me (ファラロン社)

相手の画面操作がまるごと見える

WIN MAC



Look@Me

Look@Meは、自分のパソコンの画面の中であらかじめ指定した相手の画面操作が同時に見られるフリーソフト。相手の画面操作をのぞき見しているような感覚だ。

たとえば、自分が相手の画面を見たいときは、相手側と自分側でLook@Meを立ち上げ、相手のパソコンのIPアドレスを入力して、「Observe」ボタンをクリックしてみよう。相手側に許可してもらえば、自分のパソコンの画面で相手の画面全体の操作をリアルタイムで見ることができるわけだ。反対に、自分の画面全体の操作を相手に見せたいときは、相手のほうで「Observe」ボタンを押してもらえばいい。相手のパソコン操作を見ていると、その人の性格まで見えるようで、はまるとけっこうおもしろ

いぞ。

ただ、ネットミーティングのように、1つの画面やアプリケーションを双方向で共有したり、操作したりできるわけではなく、あくまでも相手の画面を見ているだけ。見ているほうは、だまって見ているしかないのだ。

Look@Meには、ウィンドウズ版とマッキントッシュ版があるので、QuarkXPress3.3Jのようにマッキントッシュ版にしかないアプリケーションで作られた書類をウィンドウズユーザーが見ることもできる(下図)。

相手のコンピュータを操作したり、双方向で同時にコミュニケーションをしたりしたい場合には、Look@Meの製品版である「Timbuktu Pro」というソフトが必要。もともと、

Look@MeはTimbuktu Proの一機能を取り出して作られたもので、マッキントッシュなら99.95USドル、ウィンドウズなら49.95USドルの追加料金を払うと、Timbuktu Proにアップグレードできるようになっている。

■使える機能

■動画

■入手先

URL <http://collaborate.farallon.com/www/look/download.html>

これがLook@Meだ!

デザイナー林さんの画面

MAC



この図版の位置はこれでいいの?

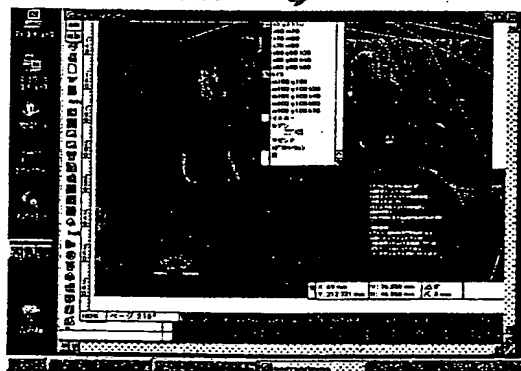


もっと大きくして左に寄せてよ。



編集者勝田さんの画面

WIN





Net2Phone (IDT社)

インターネットから通常の電話にかけられる



Net2Phone

Net2Phoneはインターネットから通常の電話にかけられるインターネット電話。いままでインターネットフォンのように、インターネット同士でかけられる電話はあったが、インターネットと普通の電話で通話ができるのはこれが初めて。

このNet2Phoneの画期的なところはこれだけじゃない。国際電話が格安でかけられるのだ。とくに、アメリカへは日本から1分間10セントという格安料金で電話がかけられるのだから驚きだ。

では、その仕組みを説明しよう。たとえば、アメリカに国際電話をかける場合、まず自分のパソコンからインターネットを通じてNet2

Phoneの開発元である米IDT社のサーバーにアクセスし、そこから通話したい相手に電話がかかるようになっている。実際の電話料金はそのサーバーから相手先までの料金しかかからないので、相手がアメリカにいるのなら、日本からアメリカに国際電話をかけてもアメリカで国内電話をかけているのと同じことになるのだ。

Net2Phoneを使用するには、IDTのホームページ (<http://www.net2phone.com/>) からアプリケーションをダウンロードする。パスワードとなる5ケタのPINナンバーを設定して登録をすればOK。1-800番で始まるアメリカのフリーダイヤルなら、そのまま電話番号とPINナンバーを入力してCALLボタンを押せば、相手につ

ながり、無料で通話できてしまう(下図)。また、ユーザー登録をして使用料25.00USドルを支払えば、世界各国に電話できる。海外に家族や友人がいる人や、インターネット通販でアメリカから注文をする人などには、とってもうれしい&ありがたいツールなのだ。

■使える機能

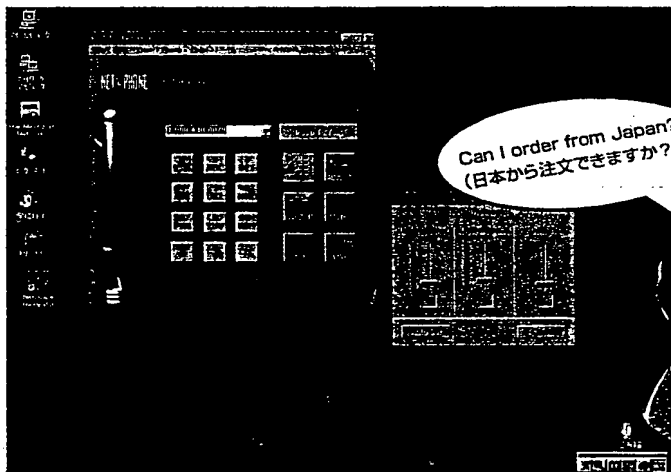
音声

■入手先

URL <http://www.net2phone.com/>

これがNet2Phoneだ！

インターネット通販が大好きな渡辺さんの画面



Net2Phoneのサーバー (アメリカ)

インターネット

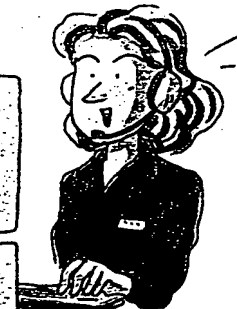


電話



Yes, you can.
(はい、できますよ)

アメリカにある通販会社





コミックチャット (マイクロソフト)

せりふが吹き出しになる漫画調のチャットソフト



コミックチャットは、会話の内容が吹き出しの中に表示されるというその名のとおりの漫画のようなチャットソフトだ。

画面の上に登場するキャラクターは、普通の人間や妙な人間、宇宙人やモンスターなど、どれもこれもユーモラスなキャラクターがいっぱいだ。しかも、それぞれが表現力豊かな8種類の表情と外国人らしい派手なポーズを持っている。

ほかのチャットソフトだと、ほとんど文字だけの会話なので感情をうまく表現できなかった。フェイスマークのような絵文字などで感情のニュアンスを表現していた。しかし、コミックチャットなら、質問する場合は不思議そうな顔を、おかしい場合は、笑っている顔を選べばよいのだ。これなら、普通のチャットよりも

より豊かに感情を表現できる。また、吹き出しの種類も選べるので、モノローグやささやくといった会話のニュアンスも付けることができる。ただし、英語しか入力できない。

また、カスタマイズも柔軟でキャラクターのほかに背景も選べる。使っている人それぞれが好みの設定画面でチャットが楽しめるのだ。

相手を見つけるのは非常に簡単で、チャットルームを集めた一覧が表示されるのでそこで参加している人数やチャットルームのテーマなどを見て好きなチャットルームに参加すればよい。もちろん自分でチャットルームを作ることもできる。

■使える機能

チャット

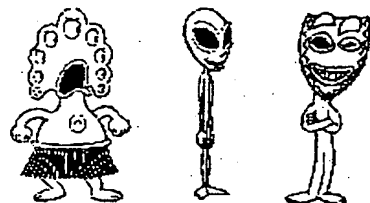
■入手先

⑤本誌付録CD-ROM収録先

WIN-Comicchat

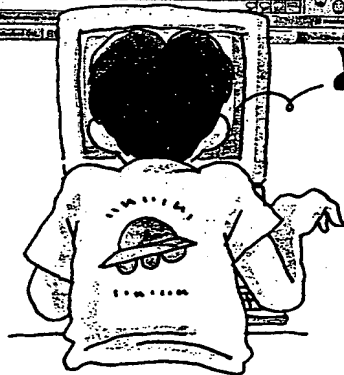
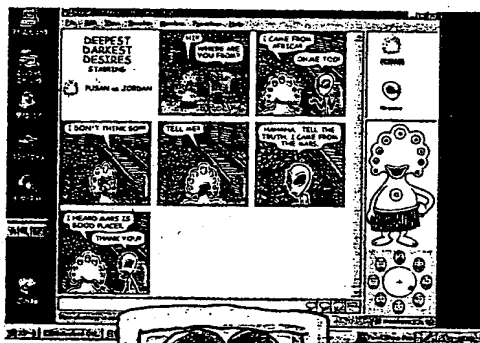
URL <http://www.microsoft.com/ie/comichat/>

表情、ポーズの表現力がゆたかなコミックチャットの登場人物

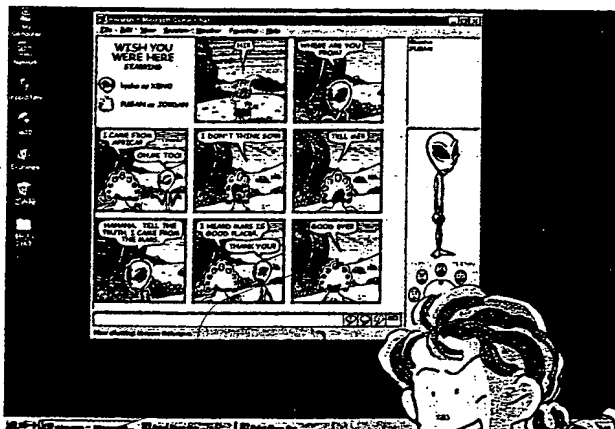


これがコミックチャットだ！

宇宙人が好きな後藤さんの画面



モンスターが好きな山本さんの画面





ワールドチャット (GLOBE WARP)

宇宙ステーションの中で会話を楽しむ

仮想空間にたくさんのユーザーが参加してチャットを楽しむツールだ。派手な仕掛けのある画面ではないが、アバター(自分の化身)のグラフィックの種類が豊富なのが特徴。普通の人間やモンスター、宇宙人やロボットから、ちょっと理解しがたいキャラクターまでかなり豊富だ。全体の雰囲気も宇宙ステーションを模したSFチックな世界になっている。日本語化されているので、日本語でチャットを楽しめる。

■使える機能

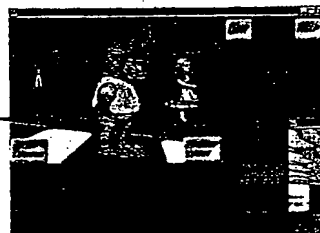
チャット

■入手先

④ 本誌付録CD-ROM収録先

WIN→Worlds

URL <http://www.globewarp.or.jp/>



サイバーゲート (Black Sun Interactive)

広大なチャットルームには奇妙な世界が...

参加している人のアバターや建物や看板がぐるぐる回る3D空間でチャットを楽しめる。会話だけでなくチャットルームを散歩するだけでもなかなか楽しい。各参加者は、ソフトをインストールするときに趣味などを入力しているので共通の話がすぐ見つかる。これなら初対面(?)の人も話盛り上がる。

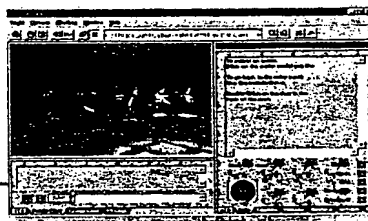
ただし、日本語は入力可能だが、参加者のほとんどは外国人で、英語で会話をしている。

■使える機能

チャット

■入手先

URL <http://www.blacksun.com/download/>



thePALACE (The Palace)

オリジナルのアイコンが作れる

米国タイム・ワーナーが開発したチャットソフトだ。会話に参加すると参加者はアイコンとして表示され、会話の内容は吹き出しの中に表示される。舞台となるチャットルームは広大で、さまざまなデザインの部屋があり、迷ってしまうほどだ。登録料25ドルを払って正規ユーザーになると、オリジナルのアイコンを使用して自分の名前を付けられる。日本のサーバーに行けば日本語で楽しむための情報が手に入る。

■使える機能

チャット

■入手先

④ 本誌付録CD-ROM収録先

WIN→Palace

MAC→Palace

URL <http://www.thepalace.com/>

日本のサーバー

URL <http://banana21.crlink.co.jp>





CU-SeeMe

動画・音声・文字がやりとりできるビデオ会議システム



CU-SeeMe

パソコンとモデムとCCDカメラがあれば、だれでも手軽にビデオ会議システムが楽しめるのがCU-SeeMeだ。高価な機材を買わなくてもビデオ会議が体験できてしまうところがCU-SeeMeのすごいところ。初めてCU-SeeMeをしたときの感動は忘れられない(と思う)。

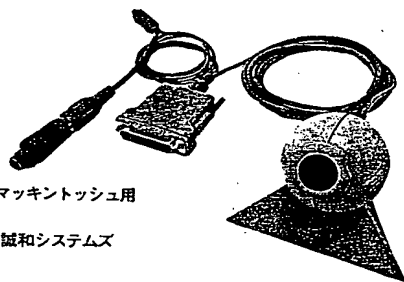
動きはややごこちないが、映像はきちんと送れる。音声のやり取りもできるけれど、あまり実用的ではないのでチャットしたほうがいいのかも。ほかのコミュニケーションツールのように、画面やアプリケーションを共有したり、共同操作したりすることできないけれど、相手の様子を見ているだけでも、十分おもしろい。

1対1で画像を送るときは、お互いのパソコンのIPアドレスを入力して接続すると、相手の画像を自分のパソコン画面で見ることができる。接続しなくてもCCDカメラをパソコンにつなぐ

と、画像が見えるので、写り具合をチェックしておこう。

3人以上で接続するには、本誌恒例の「CU-SeeMe大会」のように、あらかじめ特定のアクセス先(リフレクターというサーバー)を設定しておけばいい。

CU-SeeMeの楽しさは体験してみないとわからない。相手がいないでも、CU-SeeMeを開発したコーネル大学のように常時アクセスできるところがあるし、CCDカメラがなくても、NASAにアクセスすれば、CU-SeeMeに参加している人たちの様子を見ることができる。まずは、そのあたりにアクセスしてみよう。



Color QCam
ウィンドウズ用/マッキントッシュ用
定価: 39,800円
問い合わせ先: 樹誠システムズ
03-5352-7818

■使える機能

チャット 音声 動画
ホワイトボード

■入手方法

CU-SeeMe
●本誌付録CD-ROM収録先
WIN→CUSEEME
MAC→CU-SeeMe0.83B3
URL <http://cu-seeme.cornell.edu/#Try>
URL <ftp://cu-seeme.cornell.edu/pub/CU-SeeMe/>

Enhanced CU-SeeMe

●本誌付録CD-ROM収録先
WIN→E_CUSM MAC→E_cusm
URL <http://goliath.wpine.com/cudownload.htm>

Enhanced CU-SeeMeの登録に必要なシリアルナンバーの申請もここからできる。



Enhanced CU-SeeMe

カラー画像が楽しめる、CU-SeeMeのカラー版



Enhanced CU-SeeMe

モノクロ画像しか送れなかったCU-SeeMeのカラー版がEnhanced CU-SeeMeだ。なんと言っても、カラー画像がリアルタイムで見られるのがうれしい。これからカメラを買うのなら、やっぱりカラー版がいい? 画像のほかにも、音声を送ったり、チャットをしたりすることができるのはCU-SeeMeと同じ。

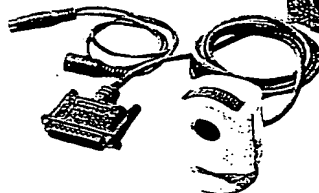
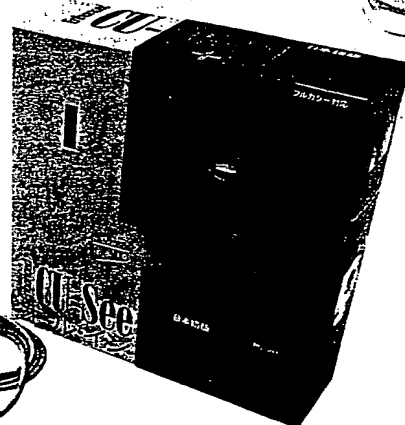
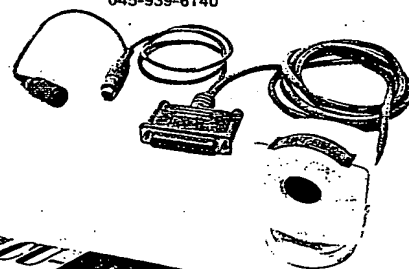
Enhanced CU-SeeMeを体験するには、Enhanced CU-SeeMe用のソフトとカラー専用のCCDカメラが必要。ソフトはWhitePine社のホームページ(<http://www.wpine.com/cudownload.htm>)から英語版をダウンロード

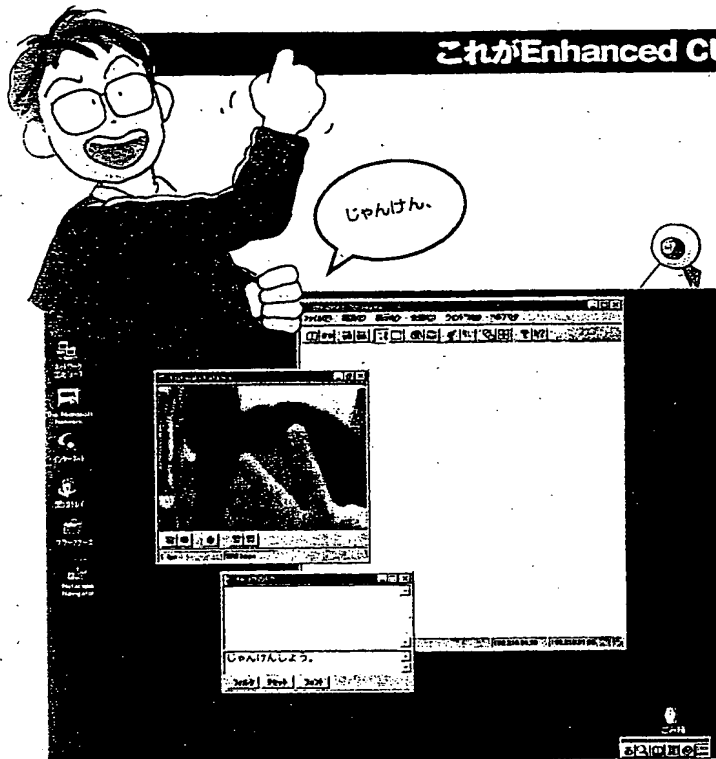
するか、日本語版の製品を購入しよう。カメラのほうは現在、Color QCamとRucolaの2種類が発売されている。パソコンの使用機種によって、カメラの型番やコネクタの接続方法が違うので注意が必要。

Enhanced CU-SeeMe日本語版とRUCOLAのセットは29,800円で(樹)マクニカより発売されている。

●カラーでCU-SeeMeできるカメラ

RUCOLA
DOS/V用/マッキントッシュ用/
PC98用
定価: 19,800円
問い合わせ先: (樹)マクニカ
045-939-6140

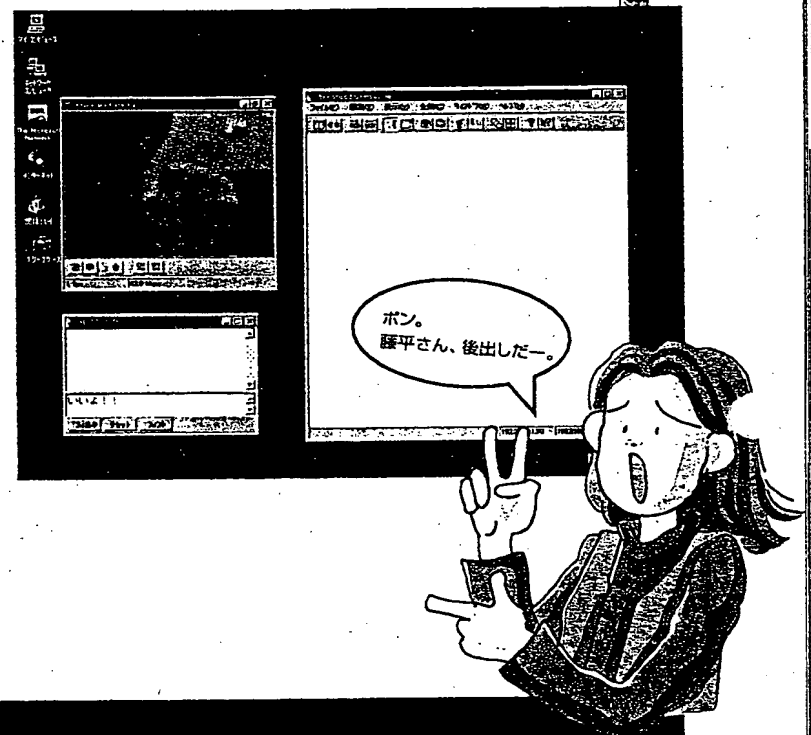




ウィンドウズを使っている藤平さんの画面

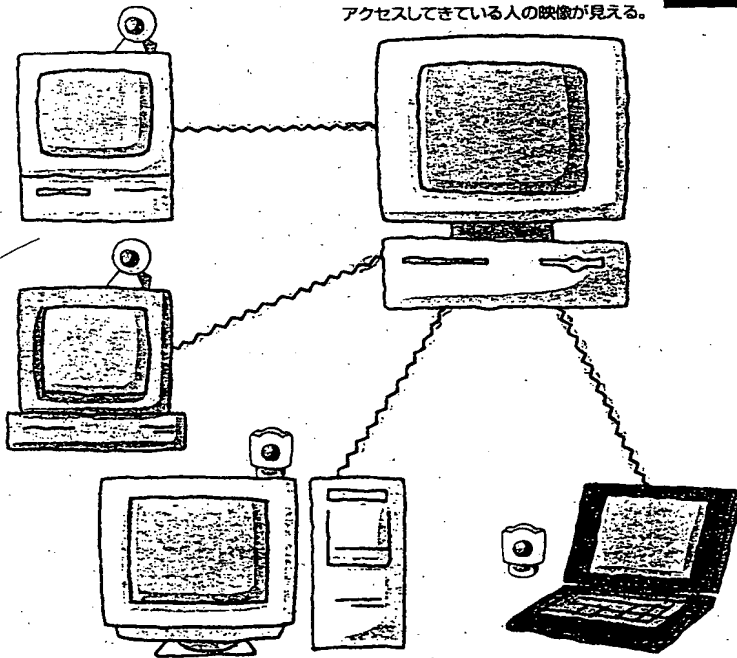
これがEnhanced CU-SeeMeだ! (1対1型)

ウィンドウズを使っている宮後さんの画面

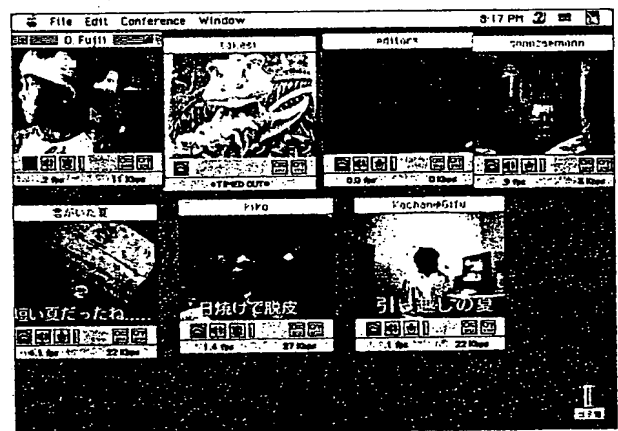


これがEnhanced CU-SeeMeだ! (複数参加型)

複数参加の場合は、現在リフレクターにアクセスしている人の映像が見える。



リフレクターで見えている画面



9月5日に開催された「インターネットマガジンCU-SeeMe大会」の様子をインターネットマガジン編集部で見ているところ。

Communication Tool

B

usiness
Report

コミュニケーションツール

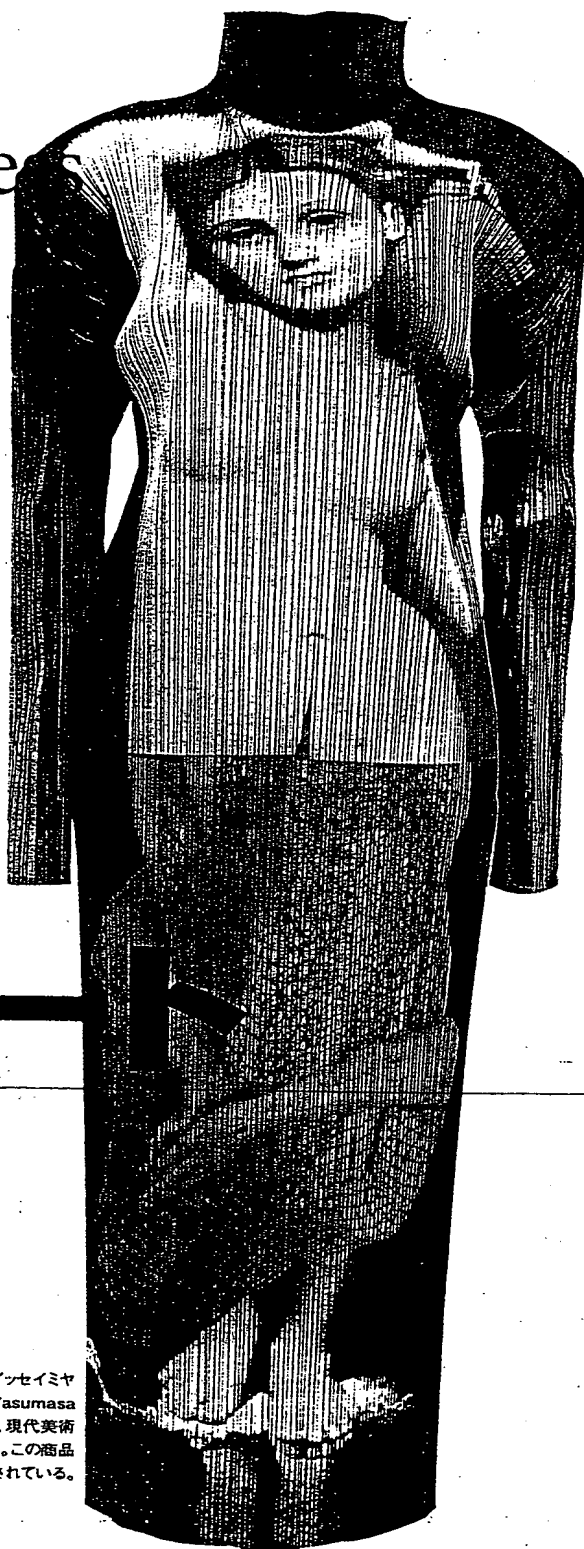
活用 リポート

株式会社イッセイミヤケ
プリーツプリーズ

PLEATS

9月に発表された「プリーツプリーズ イッセイミヤケ ゲスト・アーティスト・シリーズNO.1 Yasumasa Morimura on PLEATS PLEASE」は、現代美術アーティストの森村泰昌氏に制作を依頼。この商品の製作にもビデオ会議システムが利用されている。

PLEASE



個

人ユーザーでも使えるコミュニケーションツールを紹介してきたが、

今度は実際に企業の中で使っているビデオ会議システムを見てみよう。ビデオ会議システムといえば、文字どおり、会社内で会議をするのに使用される例が多いようだが、今回はこのシステムを使って実際に洋服の生地や縫製のチェックをしている例を紹介する。

テレビ会議システム「Phoenix」を使用して洋服の生地やパターンをチェック

独特の素材と鮮やかな色彩で人気の高いファッションブランド、ブリーツブリーズをご存じだろうか？ そのブリーツブリーズを手がけている株式会社イッセイミヤケがNTTのテレビ会議システム「Phoenix」を使用して、服の企画や生産を行っているという。同社では、宮城県にある2か所の工場と128KのISDN回線で接続して、生地や画像やパターン（型紙）の置き方のやり取りしているそうだ。服飾関係でこのシステムを使用している例はないそうで、今後注目されそうな使用法だろう。

細部の情報伝達もスムーズに

では、実際にどのように活用しているのだろうか。このシステムを使用している同社の杉田氏にお話をうかがってみた。

「今までは実際に洋服の生地そのものを工場から送ってもらって電話で説明をしていたんですが、今年の6月末にこのシステムを導入してからは、生地をカメラで写して、それを見ながらじゃあここをこういうふうに変えたらどうかという話をしています」

たしかに、この方法なら服の細かい部分の説明もリアルタイムでできるので、打ち合わせもしやすい。オフィスから工場へ新製品の企画を送り、製品化を検討してもらうこともあるという。デザインや素材を扱う場合は口で説明してもなかなかわかりにくいので、有効な活用例といえよう。

また、今までは工場に出張して生地のチェックをしたり、工場からサンプルを送ってもらったりして生地の確認をしていたそうだが、このシステムを使うことで、その場で判断ができることが多くなったという。ブリーツブリーズの服は、デ

ザインによっては先に模様をプリントしてからブリーツ加工をするので、パターンの取り方やブリーツの付け具合が非常に難しいそうだ。

生地の細部を確認するには高性能のカメラが必要

しかし、服の生地などの場合、通常のCCDカメラでは細かい部分などを見るには解像度に限界があるのではないだろうか。

「相手の顔を見るのには全然問題ないんですけど、生地や目や細部などは今のカメラで見ると、ちょっと難しいところがありますね。プロフェッショナルな部分ではさらに高性能なカメラがほしいですね」

たしかに、現在のカメラでは生地の色や微妙な風合いは分かりにくい。そのため、こちらのオフィスでは、工場のほうに「書画カメラ」という解像度の高い特別なカメラを設置して、画像のやり取りをしているそうだ。工場で仕上がった製品のチェックをする際に、このカメラを使用して、縫製やテクスチャーの具合を確認しているという。

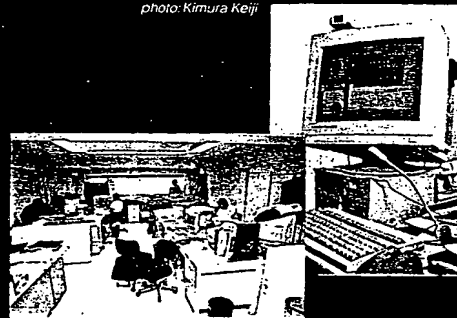
将来は海外の支店との通信も？

現在は試用期間として、このシステムを導入しているとのことだが、今後も継続して使用していきたいとのこと。

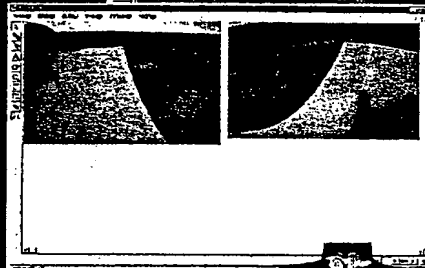
「今後期待しているのは、アメリカやヨーロッパにある海外支社とのやり取りですね。海外支社にもこのシステムが置けるようになれば、セリング（買い付けなどの取り引き）の前にも画像のやり取りができるので便利だと思います」

時差などの問題があるにしても、これはなかなか魅力的な使用法だ。このシステムを利用して作られた新しいファッションが生まれる日も近いかもしれない。

photo: Kimura Keiji



新作（左ページ写真）を作るにあたって工場の担当者
と型紙の位置を決めているところ。



画像をホワイトボードに張り付けて、
裁断する線を引いたり、パターン（型紙）を置く位置を確認したりしているところ。模様をプリントしてから、ブリーツ加工をするため、裁断する位置を決めるのにも細かい指示が必要だ。



Phoenix (PC-98版)

NTTが開発したテレビ会議システム。テレビ会議のほかに、ホワイトボードやアプリケーションの共有、ファイル転送が可能。ウィンドウズ95に対応。価格：198,000円



ビデオ会議システムを使用している
杉田亮一郎さん

実践 コミュニケーションツールを試してみよう

これまで紹介してきたツールはどんな使いみちがあるのかを検証しながらツールを実際に使って試してみた。いったいどれほど使えるのだろうか？

ネットミーティングで 離れた相手と将棋で対決！

相手がソフトを持っていなくてもアプリケーションを共有できるのがネットミーティングの特徴だ。それなら、片方が持っているゲームソフトを共有して一緒に遊んでしまえば、立派なネ

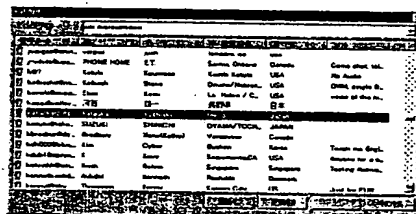
ットワークゲームになるではないか。これは名案とばかりに、さっそく将棋ソフトを使ってネットワークゲームができるかどうか編集部で挑戦してみた。

将棋好きの藤平氏

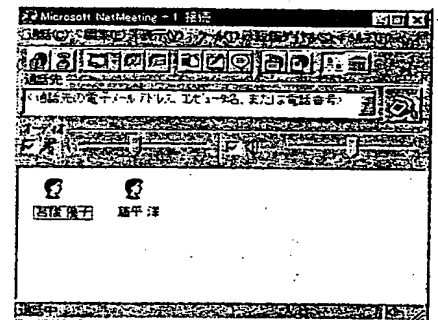


(ウィンドウス使用)

お互いにネットミーティングを起動したら、ユーザーディレクトリーサービスの画面を出し、かけたい相手を探してダブルクリックする。



1



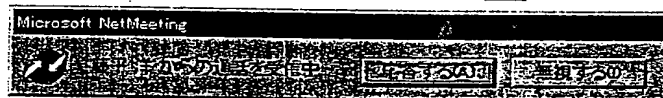
3

話している相手の名前がウィンドウの中に表示される。

将棋の苦手な宮後女史



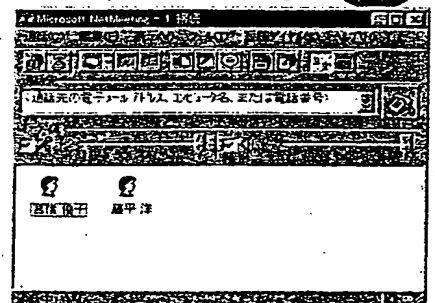
(ウィンドウス使用)



宮後さんのマシンから電話のベルのような音がして、通話を求められているとのメッセージがでる。「応答する」をクリックする。

2

かけてきた人の名前が表示される。

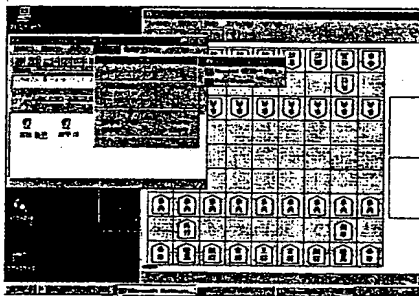
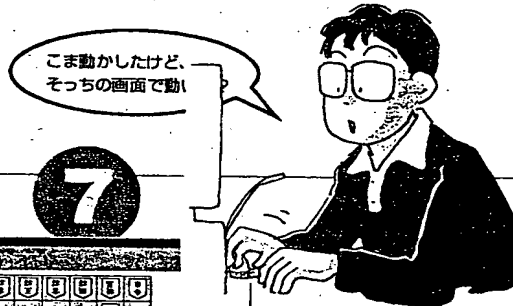


4

編集部でネットミーティングを使ってみたら……

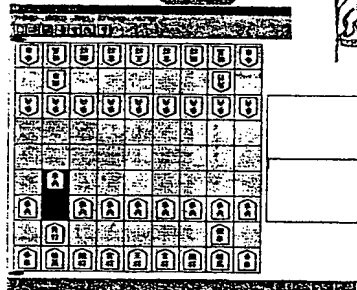
LANの中で使う限りは、音声もはっきり聞こえて会話できるし、アプリケーション共有もスムーズで、すべての機能がまったく問題ないように思われた。しかし28.8Kbpsでのダイヤルアップ接続で使用する場合は、音声はほとんど聞こえないと言っている。これが64Kbpsになると明瞭に聞こえるようになった。アプリケーション共有は、28.8Kbpsで接続してもなんと可能だ。ただし、64Kbpsでの接続さえ画面が送られてくるのには、かなりの時間がかかる。また、このアプリケーション共有で注意しなくてはならないのが画面サイズだ。向こう側がノートパソコン

のように小さい画面の場合、こちらで見えていると思われても、向こう側の画面が小さいのではみ出してしまふということがある。また、ブラウザを共有する場合などで、インターネットエクスプローラのeマークが回転する場合など、動いている画面を共有するときには、画像が表示されるのにかなり時間がかかってしまうのは、ちょっと残念だ。



まず藤平さんが遊びたいゲームソフトを起動する。「ツール」から「アプリケーション」を選び、次に起動したゲームソフトを選ぶ。

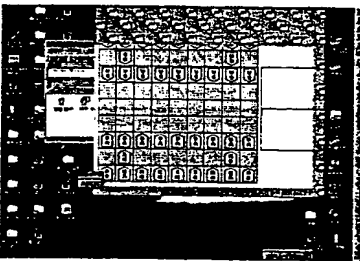
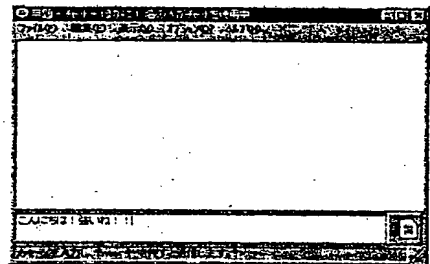
5



さっそくこまを動かしてみよう。藤平さんがマウスを操作していると、宮後さんの側ではマウス操作ができない。勝手に相手のこまを動かすことだってできるのだ。だが、ルールは守って遊ぼう。

9

ゲームの途中にチャットも楽しめる。



藤平さんが起動したゲームソフトの画面が宮さんのパソコンに送られてくる。ソフトを持っていないでもOKというところが不思議だ。しかし、お互い設定画面の大きさが違ったりするとみ出して見えなってしまう。

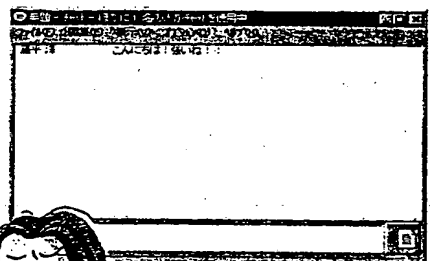
6

藤平さんが動かしたこまの動きがそのまま送られてくる。今度は逆に宮後さんがこまを動かしてみる。これならネットワークゲーム対応のゲームでなくてもネットワークゲームになってしまうというわけだ。

8



勝手に私のこまを動かさないで!



入力した会話が送られてきた。チャットしながらの将棋、楽しいものだ。

10

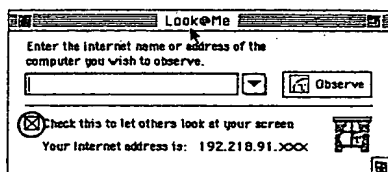


Look@Meで インターネットマガジンの 打ち合わせをしてみたぞ

インターネットマガジンの誌面はQuarkX-Press3.3JというDTPソフト(マッキントッシュ版のみ)で制作されている。今回はDTPを担当している柳沼さんがウィンドウズを使ってい

る編集者藤井さんと雑誌に載せる図版の位置について話し合っているという場面を見ながら、Look@Meの使い方を説明しよう。

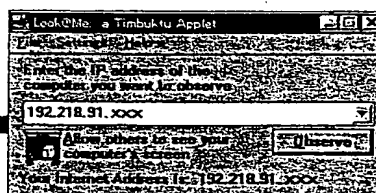
柳沼さん(マッキントッシュ使用)



柳沼さんのチェックボックスをチェックして、藤井さんが柳沼さんの画面を見ることを許可する。

1

藤井さん(ウィンドウズ使用)



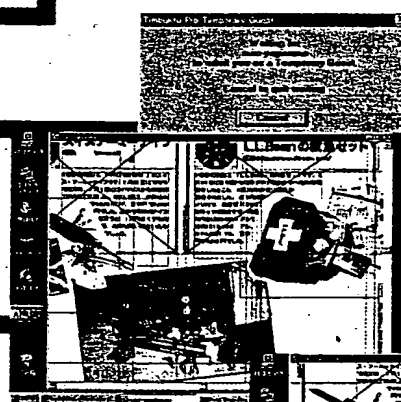
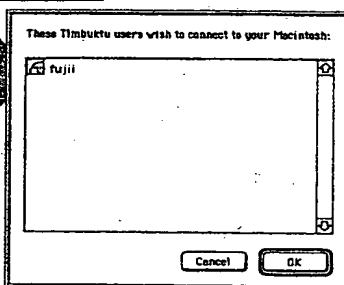
柳沼さんのパソコンのIPアドレスを入力して、「Observe」ボタンをクリックする。

2

藤井さんが柳沼さんの画面を見たが、このメッセージがくるので、柳沼さんがOKする。

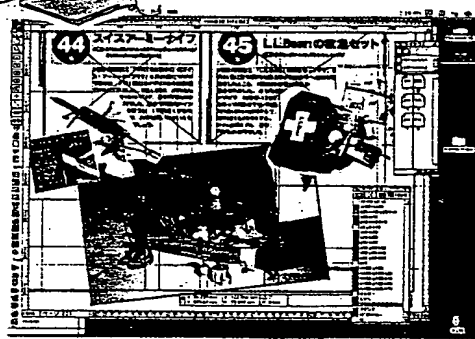
3

この図版をこっちは持ってくれば、いいのかな?



しばらくすると、柳沼さんの画面全体の様子が藤井さんのパソコンの画面上に現れる。

4

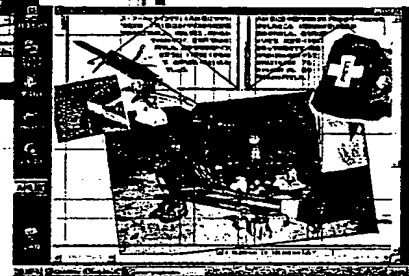


藤井さんの提案で、柳沼さん図版の位置を変えている。

5

はい、そんな感じでOKです。

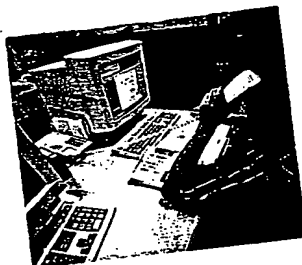
柳沼さんが直し終わったものを藤井さんのモニターで見たところ。



編集部でLook@Meを使ってみたら……

マッキントッシュの画面をダイアルアップで接続しているウィンドウズのマシンでのぞいてみたところ、専用線接続に比べて速度はやや遅くなるが、マッキントッシュの操作を見ることができた。ただし、マッキントッシュとウィンドウズでは、カラーパレットが異なるため、色が正確に表示されない。相手のアイコンはきちんとした色で表示されるのに、画面やデスクトップパターンの色はかなり変わってしまっていた。文字やレイアウトの確認には向くかもしれないが、色のチェックに

はちょっと使えない。マッキントッシュ同士なら、それほど差がなく表示される。社内LANを使って、編集部のマッキントッシュ2台でつないでみたところ、きれいに表示された。自分が相手の画面をのぞく場合、主導権は相手にある。自分が主導権を持ちたいときは、いったん接続を解除し、IPアドレスを入力しなおして相手側から自分の画面にアクセスさせなければならない。クリックすれば主導権が遷れるネットミーティングとはこの点異なる。



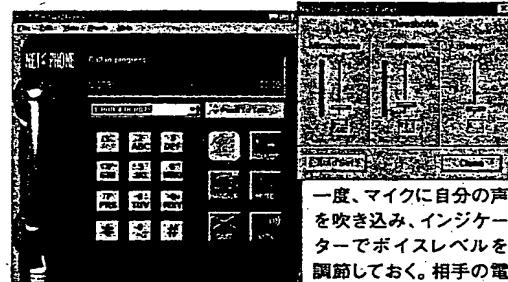
Net2Phoneでアメリカの 通販会社に問い合わせを してしまったのだー!

Net2Phoneのサーバーはアメリカにあるので、日本からアメリカに電話をしても、アメリカで国内電話をかけているのと同じことになるのだ。こんな便利な電話はもう使うしかない。本誌「Life with Internet」で注文したのにま

だ届かない商品があったので、アメリカの通販会社に電話をかけてみた。通販会社の電話番号はフリーダイヤルになっていることが多いので、Net2Phoneを使えば、電話料金はかからないのだ。

インターネット通販で注文した宮後さん

アメリカの通販会社



1

一度、マイクに自分の声を吹き込み、インジケータでボイスレベルを調節しておく。相手の電話番号を入力して「CALL」のボタンを押す。

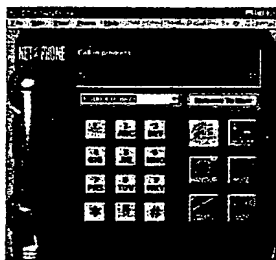
I would like to confirm my order?
(注文を確認したいのですが。)

2

相手が電話に出る。

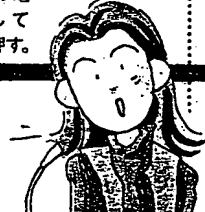


Hello. May I help you?
(なにかご用ですか?)



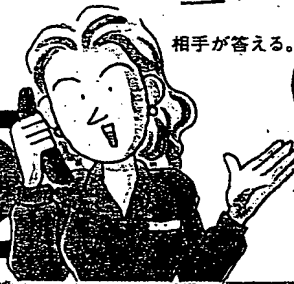
3

「Push to talk」のボタンを押しながら、しゃべる。こちらがしゃべっている間、相手の声は聞こえないので、注意。

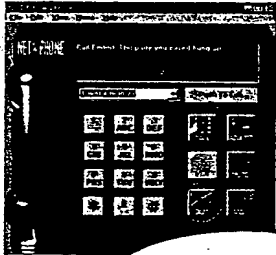


4

相手が答える。

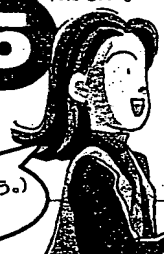


Please wait a minute.
Your order is accepted.
(しばらくお待ちください。……あなたの注文は受け付けられています。)



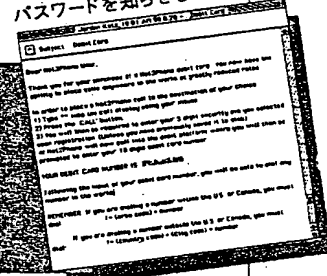
5

電話を切るときはXのボタンをクリックすればよい。



I see. Thank you.
(わかりました。ありがとう。)

パスワードを知らせるメール



1-800番(フリーダイヤル)以外に
電話したいときは?

Net2Phoneのホームページ(<http://www.net2phone.com/>)から25ドル払って申し込み登録をすると、12ケタのパスワードをメールで知らせてくれる。この番号を入力すれば、世界各国へ電話できるようになる。

編集部でNet2Phoneを使ってみたら……

編集部から1.5Mの専用線接続でアメリカに電話してみたところ、音声の遅れもほとんど感じられず、通常の電話のように通話できた。相手も初めは普通の電話だと思って通話していて、「インターネットで電話してるんですよ」と言ったら、驚いていた。また、28.8Kのダイヤルアップ接続では、最初にボイスレベルの設定をうまくしておかないと、こちらの声が伝わらないようだ。慣れないうちは、いたずら電話と勘違いされて電話を切られてしまったこともあったが、なんとか相手の声が聞き取れた。

Net2Phoneでの話し方のコツは、マイクを少し離してぼそぼそとしゃべること。マイクに近づいて大声でしゃべると、逆に聞こえにくいようだ。また、アメリカとの時差は西海岸で約16時間、東海岸で約13時間あるので、電話をする際には気を付けよう。



すべては オモチャから始まる。

いままで紹介してきたコミュニケーションツールは、まだ「オモチャ」のレベルでしか使えないかもしれない。しかし、そのオモチャの中にこそ、未来のコミュニケーションの常識を作っていく原動力があるのではないだろうか。

インターネットに興味を持っている企業の人と話をしていると、すぐに「結局どれが一番いいんですか?」とか「実際、使いものになるんですかね?」と聞かれることが多い。

そんなとき、前者のような質問をする人に、私は「失礼ですが、頭の中に発展途上国を抱え込んでますね」というような答え方をします。

「何が一番であるかが分かれば、それを追いかければいい」とか、「答えはすでにどこかにあって、それが分かれば、あとはそのパターンを踏襲するだけだ」というような考え方や、「発展途上国なんだから先進国を真似ればいい」的アプローチをすること

という具合に私は答える。結果だけ分かろうとする人には、新しく出てくるモノやサービスの可能性は見抜けないし、それが大きく発展していくプロセスに加わることの楽しさなど、ほとんどの場合、理解できないのだ。

パソコンやウェブにしても、登場したばかりの時にこれだけ普及して世の中のあり方を変えてしまう（さらに変えようとしている）とは、おそらく誰にも想像できなかったに違いない。「役に立つ、立たない」ばかりを気にする人は、そんなものが登場した当初はオモチャとしか見えなくて、バカにしていたことを都合よく忘れてしまっている。

は、インターネット上では（いや、現実の世界でもすでに）意味がない。

インターネットはたえず変貌を繰り返しているオーガニックな世界だ。常にさまざまな試行錯誤が行われ、モノやサービスはそのたびに改良されてより多くの人に受け入れられるように形を変えていく。というより、変えていかざるを得ない。なぜなら、今一番であっても、それが今後ずっと優位を保てるという保証はどこにもないからだ。その結果、社会全体が発展し、成長する。理想を追いつめながら、そうしたコンセプトにもっとも忠実であろうとしているのがインターネットの世界なのだ、と私は思う。

一方、性急に新しいモノの実用性を問う人には「10年前にあなたにマルチメディアの話をして分かってもらえなかったでしょうし、1年前にインターネットの話をして分かってもらえなかったと思いますけど」

今回の特集で紹介した「ドア」なアプリケーションも、パソコンやウェブが登場した時と同様、まだオモチャにしか見えなかったかもしれない。しかし、このオモチャは面白い! 楽しい!

コミュニケーションにからむアプリケーションは、いずれは社会生活の中に組み込まれざるを得ないという宿命を持っている。こうした宿命をそれ自身の発展のための原動力とするには、世間からのリアクションをポジティブにとらえ、それに応じて自分自身を変態させ、よりポジティブなフィードバックが受け入れられるように成長していくことが必要だ。そのために、まずは生き延びるための“はずみ”が必要になる。それがこのオモチャ的な面白さ、楽しさではないだろうか。

しかし、現実の世の中には面白さや楽しさだけでは動かない人がたくさんいる。結

今泉 洋 Imazumi Hiroshi

R E A L T I M E

果がはっきりしなければ使ってみようともしない人に、コミュニケーションにからんだモノやサービスのよさを説明して分かってもらうのは非常に難しい。この種のものの本当のよさは、実際に使ってみなければ分からないことが多いからだ。

さらに問題なのは、インターネットのような分散的な環境で機能するアプリケーションのよさは、ネットワークにつながって利用するメンバーが多くなるほど、彼らがより多くのメリットを得るという形で発揮されるということだろう。

たとえば、いくらが利用したい、相手とのコラボレーションワークに役立てたいと思っても、相手にそうしたシステム

インターネットはすでにある程度社会的なインパクトを持つまでに普及し始めている。

しかもそのユーザーは世界中に分散し、アクティブに動いている。それに、このアプリケーション自体がネットワークによって増殖し、利用者をどんどん増やすという方向に動き始めている。こうした環境の違い自体が何らかのポジティブな“はずみ”になる可能性は大いにある。要は、たとえオモチャと呼ばれようと、面白く、楽しければどんどん使い、そしてもっとよいものになるよう、それこそインターネットを

きっと楽しくインターネットと付き合って行けるに違いない。

を実現しようという気がなければ、お手上げである。たまたまシステム的には備わっていても、コラボレーションが実を上げるためには、利用者相互の間で利用のための作法が共有されていて対面的コミュニケーション以上のメリットを引き出す能力が必要になる。

端折った言い方をすれば、こうした「ドア」なネットワーク型のアプリケーションは、それが広く普及してこそ初めて、その本当のメリットやデメリットが明らかになってくるものなのだ。大きく言えば、作法が文化として普及しなければ、この手のメディアは、バラ色の未来を思い描く人が指摘するようには、役に立たないのである。

かといって黙って手をこまねいていることもないし、救いがないわけでもない。電話が登場した頃、それが一部の富裕な階層から次第に普及していったのとは違って、

通じてフィードバックをかけ続けることだ。情報社会が本当に期待できるほど楽しい社会であるのなら、その建設に苦勞せず、楽しく加わることを考えることから始めよう。

私たちがこうしてよりよいコミュニケーションを求め続けるかぎり、一見オモチャにも見えるこれらの「ドア」なアプリケーションは2001年の時点ではより洗練された形になり、現在の電話のようにそれを使いこなす文化もしっかり根づいているだろう。

私たちはいま、新しい技術を楽しみながら同時に技術進歩のプロセスに貢献し、次の時代の常識を作っていくことのできる時代に生きている。そのことを忘れなければ、

